資料２－３

分野別医学教育評価の現状と今後に向けて

教育・学習の質向上に向けた
新たな評価の在り方WG

2025年6月10日

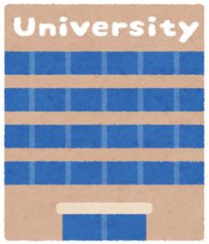
WFME
World Federation for Medical Education
世界医学教育連盟

認証

JACME
Japan Accreditation Council for Medical Education
日本医学教育評価機構

実地調査と評価・認定

日本の各医学部



FAIMER
Foundation for Advancement of International Medical Education and Research

International Medical Education Directory (IMED) 登録

Certification申請にはIMEDに登録されている医学部を卒業していることが条件

USMLE受験
Certification申請

ECFMG
Education Commission for Foreign Medical Graduates

JACME設立の背景

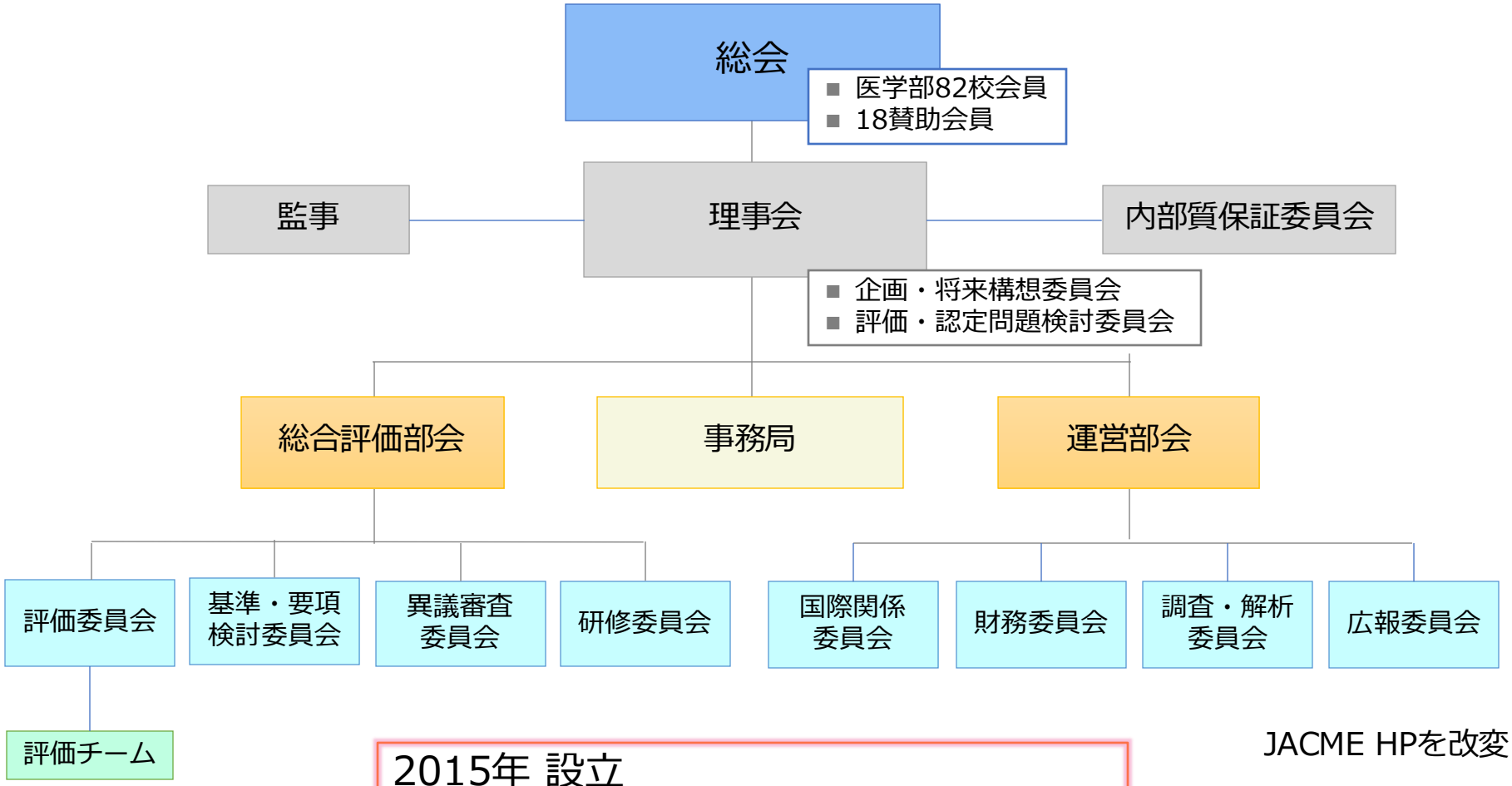
- 国民に良質の医療を提供することは医師養成機関にとって必須であり、そのため医学部では絶えず医学教育の質を国民に向けて保証することが求められている。
- 医学・医療のグローバル化に対応し、国際的に通用する医学教育分野別評価制度の確立、医学教育の質保証の仕組みづくりを目指すこととなった。

JACME HPを改変

- 「医師国家試験を受験する者には医師としての人間性・倫理性の評価が適切に行われることが前提であり、今回の見直しにあたり、各医学部においては6年間の卒前教育の中で医師としての人間性・倫理性を適切に評価するよう努め、医師として求められる基本的資質の向上が図られるよう、より一層の教育内容の充実を強く希望する。」（医師国家試験改善検討部会報告書　平成27年3月30日）

→医師としての資質・能力に関する学修成果達成を保証することは社会に向けての医学部の責務である。

一般社団法人
日本医学教育評価機構(JACME)



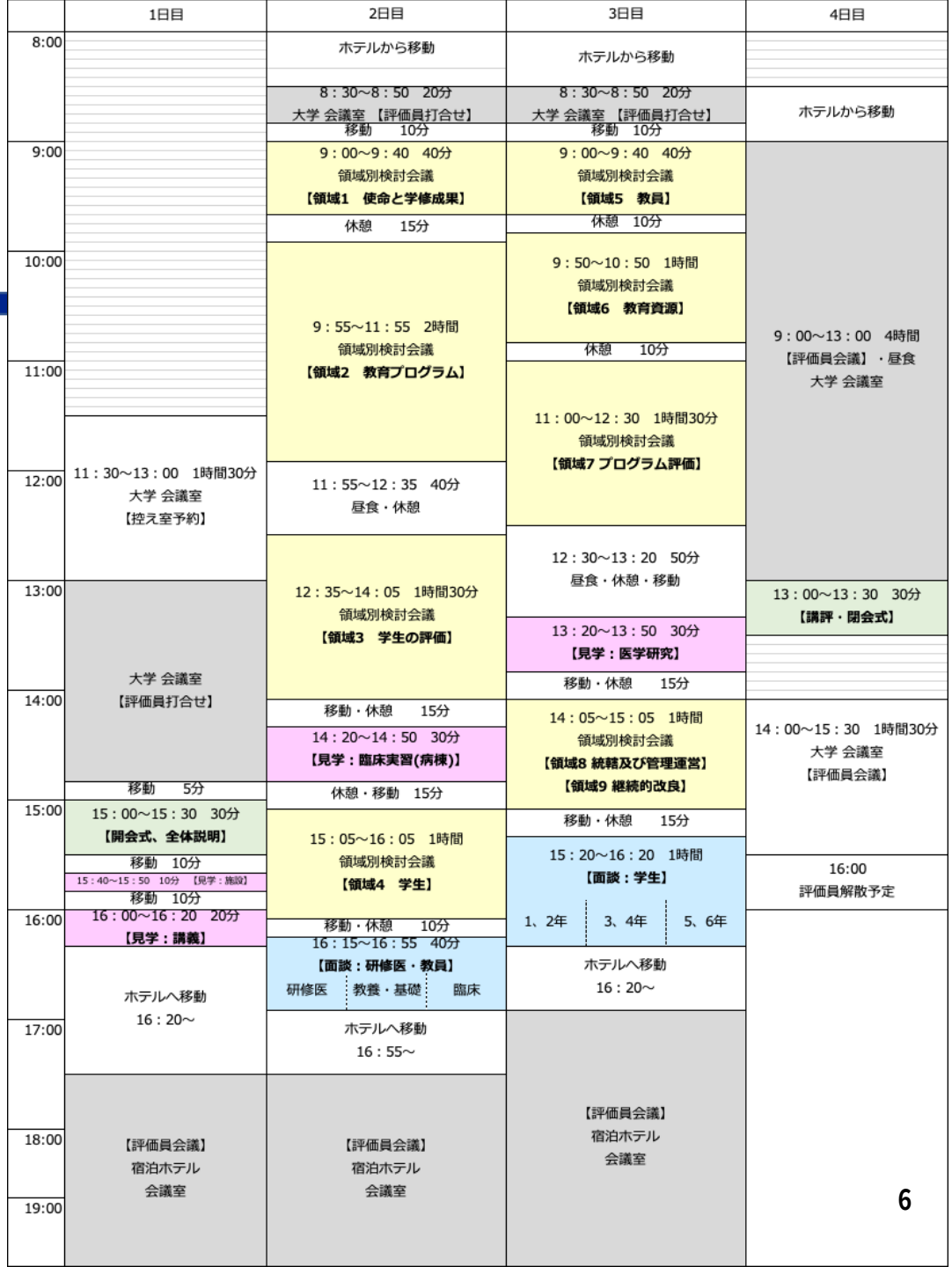
2015年 設立
2017年 WFMEより評価機関として認証

JACME HPを改変

評価の流れ

- 評価法
  - 評価基準：医学教育分野別評価基準日本版（WFMEの改訂に対応、日本の実情に合わせた改訂）
  - 評価：大学の自己点検評価（内部質保証）＋JACMEによる第三者評価（外部質保証）
- 評価プロセス
  - 自己点検評価書書面調査＋実地調査（領域別検討会議、施設や授業の見学、教員や学生へのインタビュー）
  - 評価委員会 ➡(異議審査委員会)➡総合評価部会➡理事会
- 評価体制
  - 評価員：各大学からの評価員7名によるピアレビュー
- 公開
  - 受審医学部とJACMEの合議に基づき認定した結果を公表
  - 社会的透明性：評価・認定結果、年次報告書公開

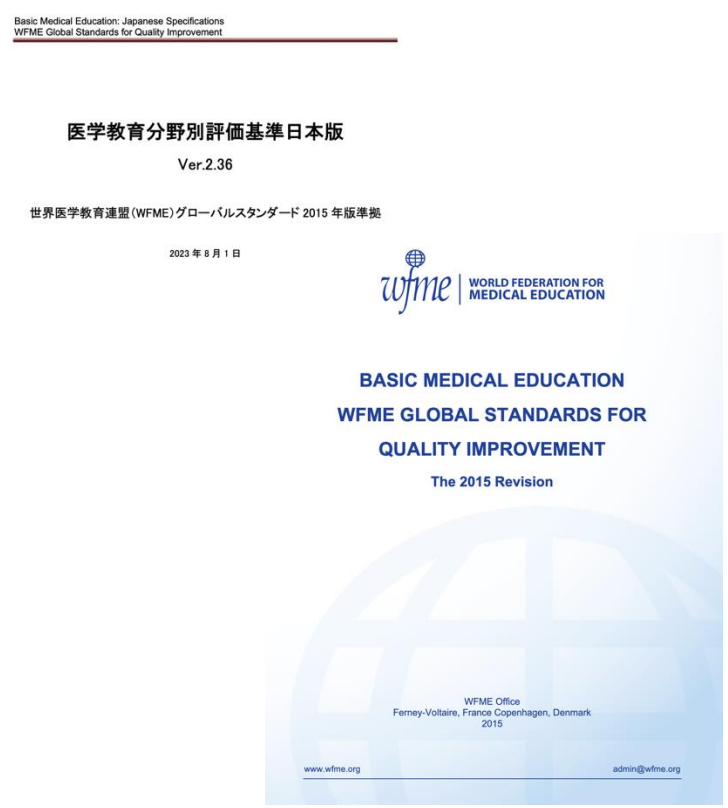
実地調査
スケジュール例



WFMEグローバルスタンダード

2015年度版準拠

1. **使命と学修成果（アウトカム）**
2. 教育プログラム
3. 学生の評価
4. 学生
5. 教員
6. 教育資源
7. プログラム評価
8. 統括および管理運営
9. 継続的改良



9領域と下位36領域
各領域ごとに2水準
- 基本的水準：どこの医学部にも求められること 106
- 質的向上のための水準：できていたら素敵なこと 90

評価報告書の概要

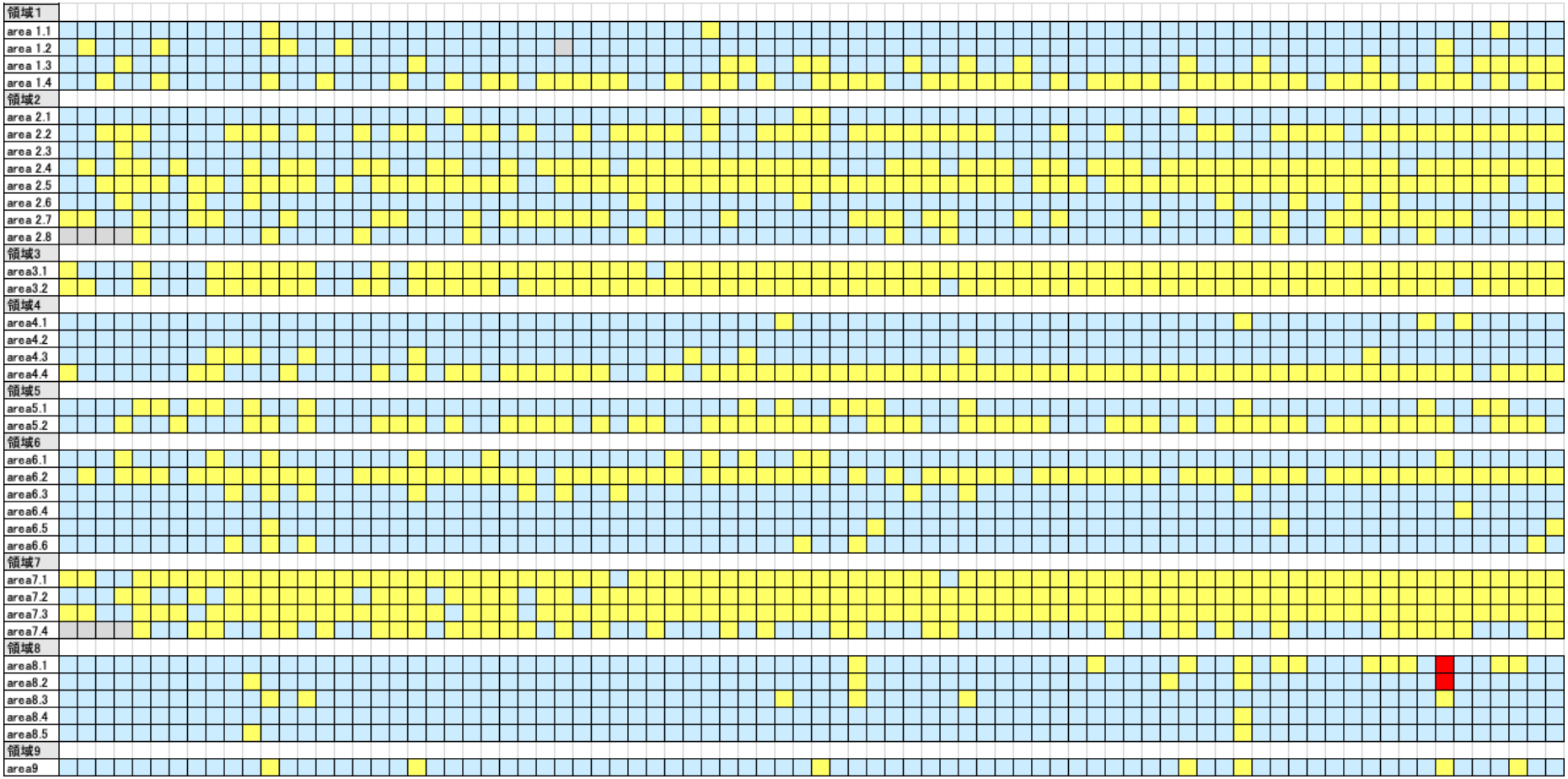
- 評価の判定：自己点検評価書と実地調査内容を基にして、下位36領域のそれぞれについて判定
  - 適合：細項目全ての基準を満たしている
  - 部分的適合：細項目の一部の基準を満たしていない
  - 不適合：細項目全ての基準を満たしていない
- 領域ごとのnarrativeな記載
  - 特色ある良い点：その医学部で優れている点、特色ある取り組み等、他大学の参考になること
  - 改善のための助言・示唆：基準から見て教育成果が十分に示されず、改善することが望ましいことへの助言や示唆

認定の状況　2025年2月現在

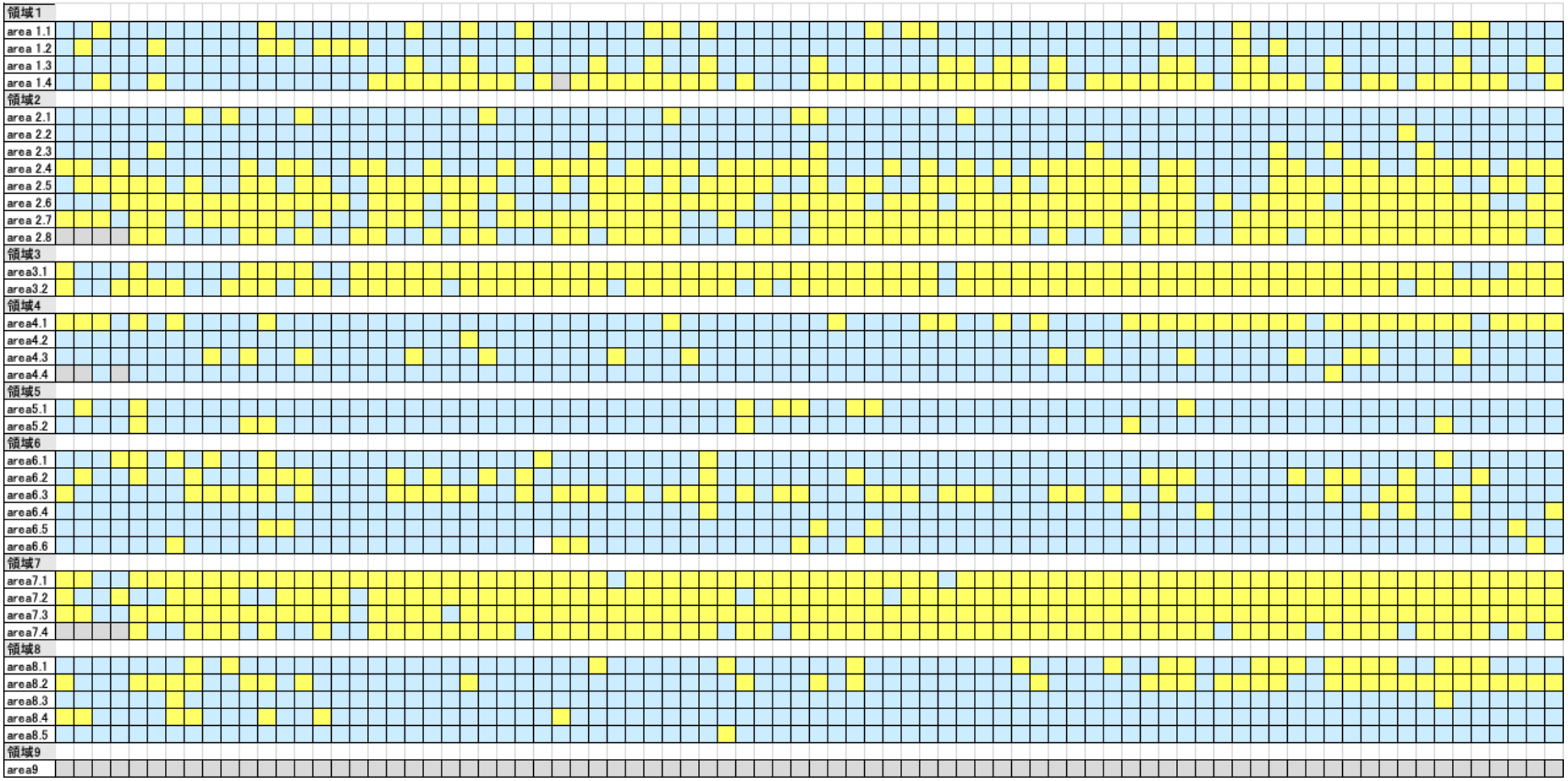
- 全82医学部が2024年9月30日までに1巡目の評価を終えた。
  - 認定　79医学部
  - 期限付認定　3医学部
  - 不認定　0
- 18医学部は2巡目の評価を終えている。
  - 認定　17医学部
  - 期限付認定　1医学部

- 評価は7年周期で実施
- 期限付認定は3年間有効で2年以内に要改善
- 毎年の改善状況を年次報告書として提出する

評価の実際　基本的水準


領域1
area 1.1
area 1.2
area 1.3
area 1.4
領域2
area 2.1
area 2.2
area 2.3
area 2.4
area 2.5
area 2.6
area 2.7
area 2.8
領域3
area3.1
area3.2
領域4
area4.1
area4.2
area4.3
area4.4
領域5
area5.1
area5.2
領域6
area6.1
area6.2
area6.3
area6.4
area6.5
area6.6
領域7
area7.1
area7.2
area7.3
area7.4
領域8
area8.1
area8.2
area8.3
area8.4
area8.5
領域9
area9

評価の実際　質的向上のための水準

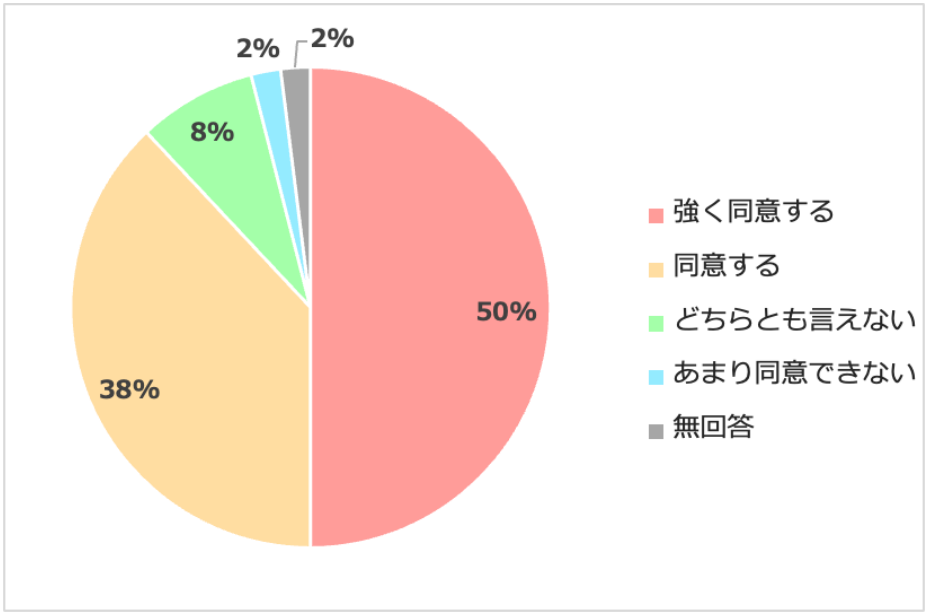


医学教育評価の効果

- これまでは医学教育の成果として医師国家試験合格率ばかりが取り上げられる傾向にあったが、医学教育評価の結果が公表されるようによって、各大学の医学教育の取り組み内容や質が世の中に広く認知されるようになった。
- 他大学の医学教育の取り組みについて詳細がわかるようになり、優れた取り組みをGood Practiceとして共有できるようになった。
- 医学部全体で医学教育に取り組む文化が醸成された。
- グローバルな観点で医学教育に求められていることを認識できるようになった。
- 世界的な基準で見た場合の日本の医学教育の強みと弱みが明らかになった。
- 総じて日本の医学教育の質全体が向上した。

JACMEの評価に対して

「JACMEによる評価は日本の医学教育の向上に役立っていますか？」

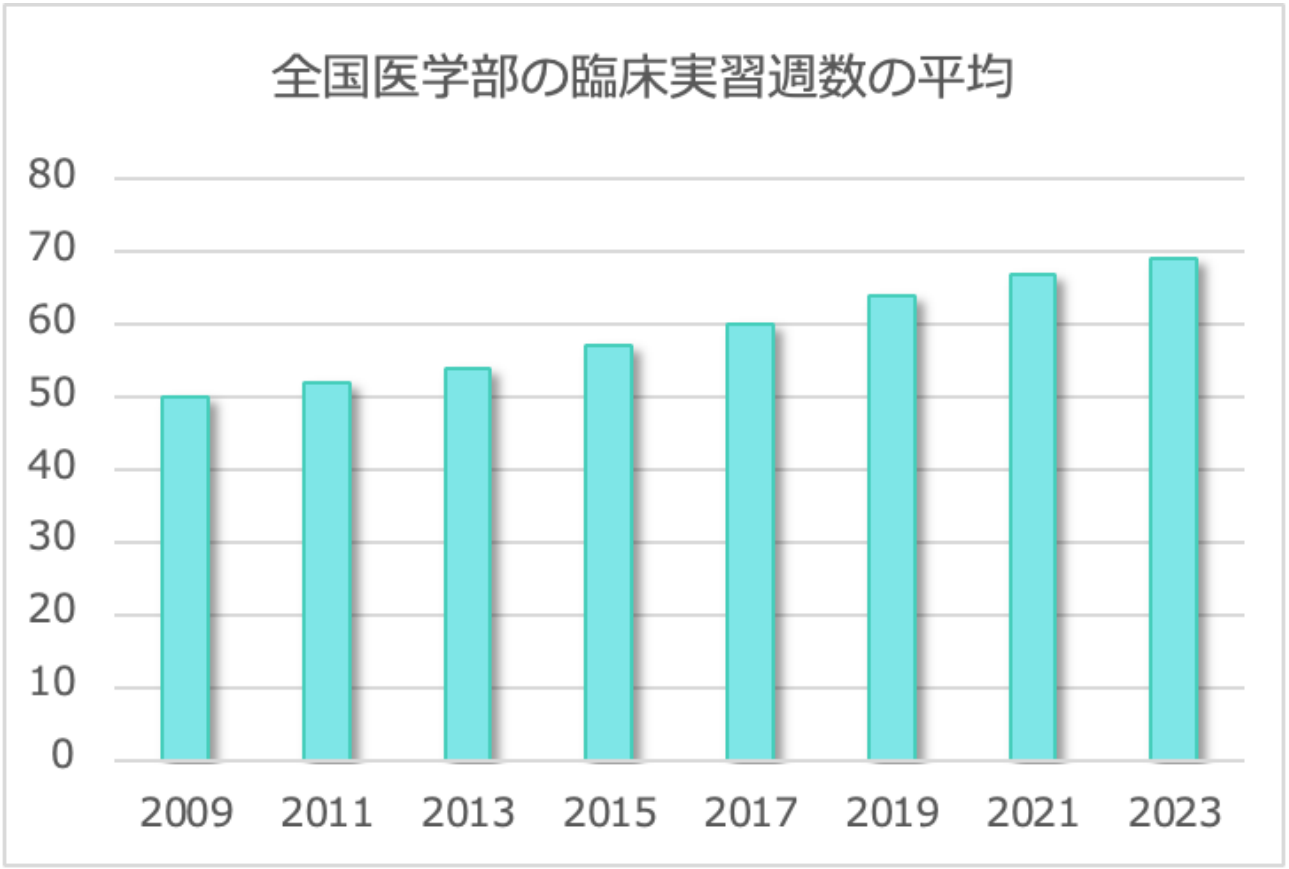


回答率
52/82

AJMC2020

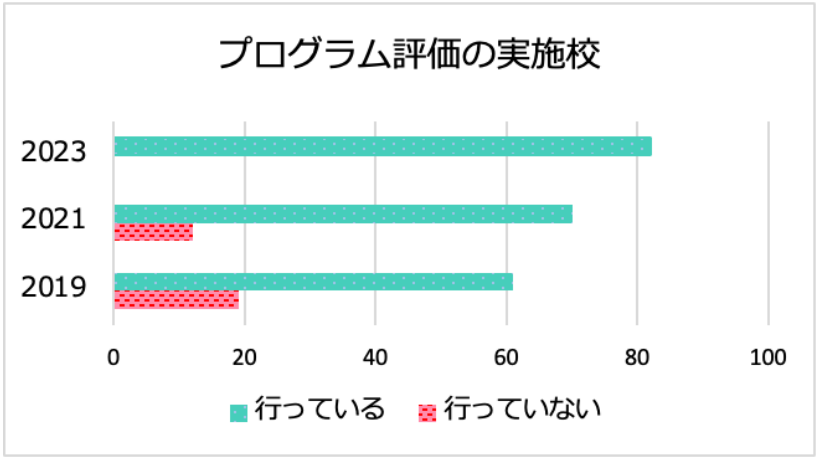
- 行動科学、EBMへの理解
- 臨床実習の充実
- カリキュラムの統合
- 学生評価の透明性確保
- 様々な評価法の導入
- 学生評価の信頼性・妥当性の検証
- 入学試験の疑義申立制度
- プログラム評価の実施
- 学生・教員からのフィードバック収集と対応
- 学生の各種委員会への参画
- 多様なステークホルダーの医学教育への参加

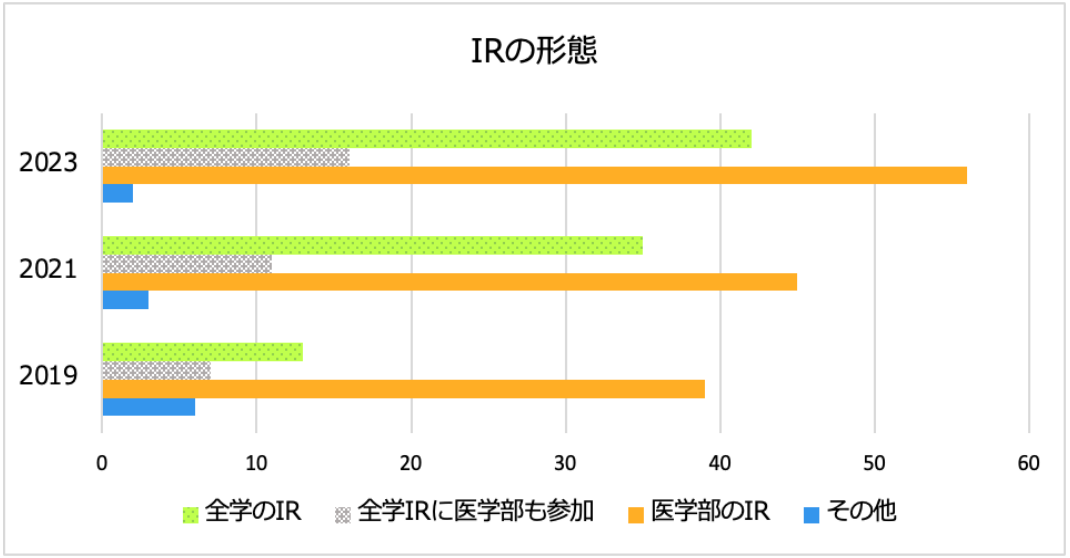
臨床実習週数の増加

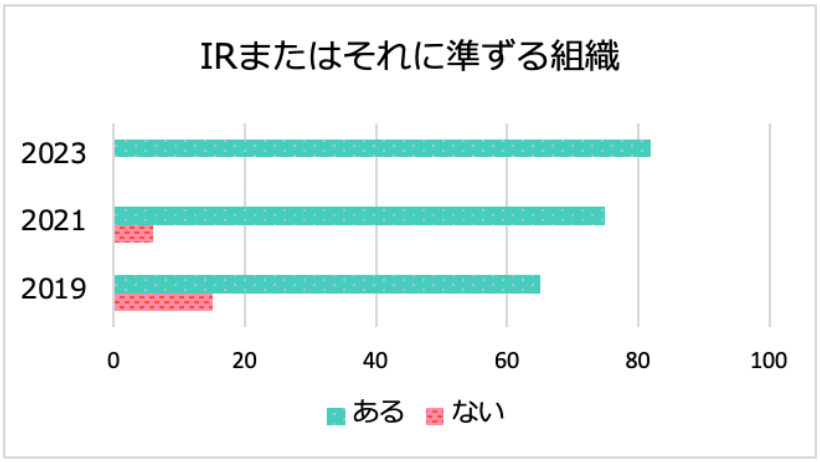


AJMC 2023

プログラム評価の実質化







AJMC 医学教育カリキュラムの現状 2019,2021,2023

医学教育評価の課題

- 分野別医学教育評価と機関別認証評価を7年ごとに受審しなければならないことによる負担感が非常に強い。一部の教職員の努力によって受審のためにとりあえず対応するという姿勢になってしまいがちである。
- 自大学の様々な取り組みを十分に評価してもらえていないという不満感もある。
- 各大学が努力して教育の質が向上している事実があるにも関わらず、評価が自大学の教育の質向上に寄与しているという実感を感じにくくなっているという問題がある。
- WFMEの基準はグローバルスタンダートであるが故に、わかりにくい、日本の現状に合っていないという意見もある。
- 一般社団法人としてのJACMEの体制について再検討が必要であるとの意見もある。（会員大学から派遣される評価員や各種委員会委員の努力、財務状況など）

医学教育評価の今後

- Process-basedから**Principle-based**の評価へ
  - 各医学部の多様性を尊重する。
  - 医学部では学生一人ひとりを見る視点、プロフェッショナリズムなど定性的な評価の視点が強く、現場での評価が重要である。
  - 評価基準をチェックリストとして用いるのではなく、各医学部の優れた点や取り組みの姿勢をnarrativeに評価できるシステムが必要である。
  - 医学、医療の世界は常に変化しているので、医学部と評価機関は常に変化する環境の中で教育の卓越性を追求するパートナーを目指す。

医学教育に特化した分野別評価の必要性

機関別認証評価基準との関連

JACME

1. 使命と**学修成果**
2. **教育プログラム**
3. **学生の評価**
4. 学生
5. 教員
6. 教育資源
7. **プログラム評価**
8. 統括および管理運営
9. **継続的改良**

大学基準協会

1. 理念・目的
2. **内部質保証**
3. 教育研究組織
4. **教育・学習**
5. 学生の受け入れ
6. 教員・教員組織
7. 学生支援
8. 教育研究等環境
9. 社会連携・社会貢献
10. 大学運営・財務

大学改革支援・学位授与機構

1. 教育研究上の基本組織
2. **内部質保証**
3. 財務運営及び情報公表
4. 施設及び設備ならびに学生支援
5. 学生の受入
6. **教育課程と学習成果**

日本高等教育評価機構

1. 使命・目的
2. **内部質保証**
3. 学生
4. **教育課程**
5. 教員・職員
6. 経営・管理と財務

「知の総和」の向上に向けて

- 在学中にどれくらい力を伸ばすことができたのか、段階的な学修成果達成と質の評価はまさに医学教育の課題として議論している。
  - 定量的・定性的な学修成果の蓄積と総合的な評価
  - 卒業時アウトカムの達成評価
- 機関別認証評価と分野別医学教育評価が7年おきに実施されることへの負担感が大きく、評価基準も共通することから、2つの評価の調和を目指すことが望ましい。
  - 医学教育評価のこれまでの経験や実績を活かした制度の検討
  - 医学・歯学・薬学・看護学などモデル・コア・カリキュラムを踏まえた上で実施されてきた分野別評価の特性への視点
- 6年制の教育に対しての評価サイクルの検討
- 各大学の優れた取り組みの積極的な公表
- 内部質保証充実のための支援
- 卒業生の実績を蓄積できるような仕組みの検討